AN 合併率の相違も含めて，hemodynamic stress，血管壁自体の問題及び高血圧等の面から検討する．さらに AN 高頻度合併の臨床的意義，特に微小血管減圧術前の脳血管撮影の必要性についても考察する．

15）脳挫傷の MRI ―CT との比較―

関原 芳夫・栗田 勇（新潟中央病院 脳神経外科）
日高 俊彦・岡田 耕坪

頭部外傷における MRI の有用性について検討した．

〔対象および方法〕対象は臨床的に脳挫傷と診断された症例（頭蓋内血腫合併例も含む）で，同時期に CT，MRI を施行し得た急性期（2週間以内）27例，慢性期（3ケ月以上）31例である．MRI は，そのパルス系列に IR（Tr＝1600msec, Td＝500msec），および SE（Tr＝2000msec, Te＝40 および 80msec）を用いた．使用した機種は旭 Mark−J（0.1 T）である．

〔結果〕1. MRI 所見：脳挫傷は受傷当日より T 1, T 2 の延長として認められた． Contusional hematoma では T2 は受傷当日より延長しているが，T 1 は数日後より high intesity ring を呈するようになり約1ケ月継続した．慢性期では，IR 上清水らのいう porencephalic cyst を呈しその表面に T 2 延長病変を認めることが多かったが，他に T1，T2 の延長した病変も認められた．2. CT との対比：急性期，慢性期とも MRI の方が病巣検出にすぐれ，特に頭蓋底に近い病変，脳梁や後頭蓋窩病変で明らかであった．

〔結論〕MRI は CT であいまいな病変，見つからない病変を明確にし得る有用な検査法であると考えられた．

16）外傷性小脳出血の 5 例

阿部 秀一・古川公一郎（岩手医科大学 高次救急センター）
星 秀逸
金谷 春之（同 脳神経外科）

外傷性小脳出血5例を経験したので報告する．3才の小児1例，50才以上の4例で全て男性である．転倒1例，交通事故4例で，4日後に来院した小児以外3時間以内に搬入された．受傷時全例に意識障害があり，来院時 GCS で 13〜14が2例，10〜11が2例，3が1例である．全て後頭部打撲によるもので，後頭骨骨折は4例にみられた．CT 上小脳血腫の大きさは，1cm 以下のもの2例で4室の圧排はないか軽度，3cm 以下が1例で4室の圧排，偏位は著明であったが消失はしていない．3cm 以上の2例では4室は消失している．テント上の合併は全例にみられ，subdural effusion 1例，SAH 2例，前頭葉の挫傷4例，急性硬膜下血腫3例である．手術は2例の硬膜下血腫に施行，うち1例に後頭蓋窩内外減圧術を，1例に Barbiturate 療法を行った．GOS は血腫径 1cm 以下の2例は good recovery，3cm 以下の Barbiturate 例及び 3cm 以上の減圧術例の2例は moderate disability であった．3cm 以上の1例は激症型で3日後に死亡した．外傷性小脳出血には3つの type がある．

17）多発性脳内血腫のみられた軽症頭部外傷の 2 例について

小池 俊朗・本田 吉穂（水原郷病院 脳神経外科）
今野 公和
伊藤 寿介（新潟大学歯学部 放射線科）

重症頭部外傷において，遅発性脳内血腫や多発脳内血腫を認めることはよくあるが，軽症頭部外傷において，多発脳内血腫を認めることは稀である．我々は軽症頭部外傷後多発脳内血腫を起こした2症例を経験したので報告する．

症例 1. 61才，男性．昭和61年12月22日夜，酒に酔って階段から転落，受傷．翌朝，意識清明，神経学的に異常ないが，受傷から翌朝までの健忘症を認めたため，12月27日当科紹介．頭蓋骨々折なし．CT にて，右前頭葉に3ケ所，左前頭葉に4ケ所に散在する小円形高吸収域を認めた．これは造影されず．CT を追跡して，等吸収又は低吸収域となって消失したので，多発性脳内血腫と診断した．

症例 2. 71才，男性．昭和62年1月5日，梯子から落下，受傷．両上肢しびれあり，当科紹介．意識清明，主訴の他，背部痛のみで，麻痺なし．頭蓋骨々折なし．CT で右前頭葉皮質下，左前頭葉内側硬膜下，左尾状核部に同様の高吸収域を認め，多発脳内血腫と診断した．同様に，CT の追跡にて血腫は消失した．

これら外傷性多発脳内血腫2例について，その発生機序に対して考察を加える．

18）脳脂肪塞栓症の 2 例

川上喜代志・高橋慎一郎
園部 真・甲州 啓二（国立水戸病院 脳神経外科）
広田 茂・楠瀬 睦郎
増山 祥二・石橋 孝雄（大宮赤十字病院 脳神経外科）

発症急性期より CT にて追跡しえた脳脂肪塞栓症の2例を報告する．症例は27才男性と16才女性で，いづれも交通外傷による大腿骨々折に伴ったものである．その臨床像及び CT 所見は酷似していた．患者は受傷後